

永峰 智浩氏の報告をダイジェストでご紹介いたします。

実行委員長がんばつたら会社が良くなつた

「見守る」リーダーが導いた売上3番への軌跡

(有)永峰養豚場 代表取締役 永峰 智浩氏

(きりしま支部)

創業 / 1973年
資本金 / 300万円
年商 / 5億600万円
社員数 / 16名

事業内容 / 養豚一貫生産
(飼育総数9,000頭)
枝肉販売・堆肥製造販売

はじめに

私は1982年生まれの43歳で、宮崎県都城市で養豚業を営んでいます。都城市は、人口15万9,000人に対し、豚35万頭、牛6万頭、鶏885万羽を擁する「家畜の方が多い町」であり、市町村別の農業産出額で長年日本一を維持する畜産の町です。

我が社は1973年に父が創業し、1998年に法人化しました。現在は母豚800頭、総飼養頭数1万頭規模へと発展しています。経営理念は「生命(いのち)と向き合い、生命(いのち)をつなぐ」であり、豚肉の安定供給を通じて人々の健康と長寿に貢献し、チャレンジ精神を持つて輝きあう企業をめざしています。

私は地元の農業高校を卒業した後、鹿児島県の農業大学校を経て、国内研修に赴きました。しかし、農場施設は老朽化が進行し、豚が外へ逃げ出すような状態でした。アメリカで描いた「理想の農場をつくりたい」という夢の実現に向けて、父の「やれるもんならやってみろ」という言葉を引き出し、行動に移しました。

融資交渉の最終局面、銀行から「理念とかないですか?」と問われ、引き出しにしまった理念を取り出し、真剣に説明しました。説明をしながら、理念に沿った行動を自分ができていたことに気づき感動したのを覚えて、結果20億円もの資金を調達できました。当時の売上の10倍近い金額であり、売上を3倍にすることをめざす大きな挑戦でした。

新農場建設で多忙を極めていた私は、農業青年団体での長としての活動や商工会青年部での部長経験など、すこいさまざまな青年組織を経験していました。青年部会に對して、当初、「同友会に青年部は必要ない」と感じていましたが、2019年11月に設立された青年部会に対しても、青年部は必要ない」と感じていました。

実行委員長としての「変革」

新農場建設で多忙を極めていた私は、農業青年団体での長としての活動や商工会青年部での部長経験など、すこいさまざまな青年組織を経験していました。青年部会に對して、当初、「同友会に青年部は必要ない」と感じていましたが、2019年11月に設立された青年部会に対しても、青年部は必要ない」と感じていました。

理想と現実、そして父との衝突

しかし、当時の我が社は、私が描いた理想とはかけ離れていました。豚舎は壁がないほど老朽化し、冬は寒く夏は暑い、休みもほとんどない家族経営でした。業務量の多さから管理も追いつかず、豚が病気になりがちで死亡率も高まり、売上は上がらないのに治療費が増えるという悪循環に陥っていました。

私はアメリカで学んだ先進的なシステム

修に加え、アメリカで2年間学びました。このアメリカでの経験は、私にとって大きな転機となりました。大規模経営、効率的な飼育システム、社員雇用による組織化を目の当たりにし、帰国後は「自分も同じような養豚経営をめざそう」という夢を抱きました。

私が社は1973年に父が創業し、1998年に法人化しました。現在は母豚800頭、総飼養頭数1万頭規模へと発展しています。経営理念は「生命(いのち)と向き合い、生命(いのち)をつなぐ」であり、豚肉の安定供給を通じて人々の健康と長寿に貢献し、チャレンジ精神を持つて輝きあう企業をめざしています。

私は地元の農業高校を卒業した後、鹿児島県の農業大学校を経て、国内研修に赴きました。

しかし、農場施設は老朽化が進行し、豚が外へ逃げ出すような状態でした。アメリカで描いた「理想の農場をつくりたい」という夢の実現に向けて、父の「やれるもんならやってみろ」という言葉を引き出し、行動に移しました。

勢いに乗っていた私は、当時の部会長から「来年、宮崎で開催する青全交の実行委員長を部会長、どちらかやつてみない?」と問われた際、「実行委員長は全国で一人だけ。部会長は47人いる。実行委員長の方が面白そう」という理由だけで、実行委員長を引き受けました。

当初の活動は困難を極めました。県内に協力を求めて「がんばつてね」といった反応しか得られず、自分の思いが伝わらないことに苦悩しました。組織づくりも難航し、全てを自分で抱え込み、「どうしよう、どうしよう」と追い込まれました。そんな中で副実行委員長や実行委員を担つてくれるメンバーが現れ、「実行委員長、ここは任せください」と言われたことで状況が一変。同友会のメンバーは皆だと気づきました。私は自分で全て背負うリーダーから、方針を明確にし、役割と権限を委譲し、最終的な責任は自分が取るという「見守るリーダー」として変革することができたのだと思いります。

組織が動き出すとスピードは上がります。参加目標を当初の1,500名から見て、死んだ豚も見て、自分なりに

同友会での衝撃と自己変革

した。しかし、九州・沖縄ブロック青年部合同例会での報告や連絡会への参加を通して、同世代の経営者たちが理念や経営に真摯に向き合う姿に刺激を受け、青年部活動に積極的に参加するようになります。

私はアメリカで学んだ先進的なシステム

も導入を父に提案しましたが、父は昔ながらの職人であり、「アメリカだからできる」「投資する金もない」と常に反対されました。私たちは本当によく衝突し、何を提案しても頭ごなしに否定される日々に暮れました。父がめざしたのは家族で支えあう小規模経営でしたが、私は大規模養豚の夢を持っていました。人手不足解消のための社員雇用も反対され、父のリーダーシップは独裁に近いワンマン経営でした。

テム導入を父に提案しましたが、父は昔ながらの職人であり、「アメリカだからできる」「投資する金もない」と常に反対されました。私たちは本当によく衝突し、何を提案しても頭ごなしに否定される日々に暮れました。父がめざしたのは家族で支えあう小規模経営でしたが、私は大規模養豚の夢を持っていました。人手不足解消のための社員雇用も反対され、父のリーダーシップは独裁に近いワンマン経営でした。

火災を乗り越え、未来へ向かう

した。しかし、九州・沖縄ブロック青年部合同例会での報告や連絡会への参加を通して、同世代の経営者たちが理念や経営に真摯に向き合う姿に刺激を受け、青年部活動に積極的に参加するようになります。

勢いに乗っていた私は、当時の部会長から「来年、宮崎で開催する青全交の実行委員長を部会長、どちらかやつてみない?」と問われた際、「実行委員長は全国で一人だけ。部会長は47人いる。実行委員長の方が面白そう」という理由だけで、実行委員長を引き受けました。

当初の活動は困難を極めました。県内に協力を求めて「がんばつてね」といった反応しか得られず、自分の思いが伝わらないことに苦悩しました。組織づくりも難航し、全てを自分で抱え込み、「どうしよう、どうしよう」と追い込まれました。そんな中で副実行委員長や実行委員を担つてくれるメンバーが現れ、「実行委員長、ここは任せください」と言われたことで状況が一変。同友会のメンバーは皆だと気づきました。私は自分で全て背負うリーダーから、方針を明確にし、役割と権限を委譲し、最終的な責任は自分が取るという「見守るリーダー」として変革することができたのだと思いります。

組織が動き出すとスピードは上がります。参加目標を当初の1,500名から見て、死んだ豚も見て、自分なりに

危機からの脱却と20億円の挑戦

その後、2019年に代表に就任しましたが、就任直後の資金繰りは「火の車」でした。出荷成績の低下や病気の発生等様々な問題が重なって売上は2億2,000万円から1億8,700万円まで落ち込みました。この状況を開拓するため、私は技能実習生の受け入れを実感しました。

火災という大きな危機はありながらも、売上3倍という目標を達成することができたのは、青全交実行委員長を担うことで培うことができたリーダーの姿にあると考えています。

私は、「引っ張るリーダー」から、「社員や仲間を信頼し見守つていく「支えのリーダー」へ変わりつつある。私の目標は、今後10年で養豚経営者を5名育成し、地域で深刻化している耕作放棄地解消などの新規事業にも取り組み、日本の農業を守り発展させることです。

そして、売上も挑戦を楽しんでいきます。

そこで2024年1月29日、火災が発生し、分娩の場所であった豚舎がほぼ全焼。我が社にとって最大の危機です。その豚舎を担当していた社員もかなり苦しいです。ただ、今日現場を見て、死んだ豚も見て、自分なりに

り、社員を大切にする感覚がほとんどありませんでした。

それから同友会で学び続けていた私でした。が、ある時、先輩経営者から「お前がやつてること、父ちゃんと一緒にやねえか」と指摘されます。自分は変わつたつもりでいましたが、実際は父と同じような態度や言葉を社員に向けていたのです。打ちのめされながらも、先輩の助言で2016年に「経営指針をつくる会」を受講しました。

社員と9か月間かけて話しあい、「生命(いのち)と向き合い、生命(いのち)をつなぐ、豚肉を安全に供給して人々の健康と長寿に寄与する」という経営理念が完成しました。しかし、父に否定されることを恐れた私は、完成した理念をそのまま机の引き出しにしまってしました。

父と同じような態度や言葉を社員に向けていたのです。打ちのめされながらも、先輩の助言で2016年に「経営指針をつくる会」を受講しました。

「生命(いのち)と向き合い、生命(いのち)をつなぐ、豚肉を安全に供給して人々の健康と長寿に寄与する」という経営理念が完成しました。しかし、父に否定されることを恐れた私は、完成した理念をそのまま机の引き出しにしまってしました。

父と同じような態度や言葉を社員に向けていたのです。打ちのめされながらも、先輩の助言で2016年に「経営指針をつくる会」を受講しました。

「生命(いのち)と向き合い、生命(いのち)をつなぐ、豚肉を安全に供給

した。玄関から観葉植物がズラリ。手入れも行き届いて横山さんの人柄を感じます。

還暦直前の創業
事業を始めて17年になるとのこと。日向の市郡医師会で働いていた時に感じた介護の在り方に想いをのせ開業を決断した横山さん。介護福祉士、介護支援専門員の資格は九州保健福祉大学（現・九州医療科学大学）の通信制で働きながら学び取得しました。事業を始めた時はいろいろとご苦労もあつた事と思いますが「その間苦しめたことは思いません」とサラッと話す横山さん。朝早くから夜遅くまで働き、学んだそうです。「たくさんの人に助けていただきました、融資がうまくいかず友人が手を差し延べてくれ何とかスタートできました」と。横山さんのお話は、何事もポジティブ思考で圧倒されます。

同友会について

横山さんは同友会に2024年の3月に入会し、昨年6月には一緒に働いている娘さんと息子さんの奥さんが入会しました。

「例会で学んだことを私だけじゃ伝えきれません、それを娘や嫁、そして職員にも参加を促し伝えていきたいなと考えました。私の考えと同友会の教えは似たところがあります。異業種の方々の報告を聞いてよかつたと

グルーブがたくさんあるので温度差

取材（株）クロギデザイン 黒木詔一



特定非営利活動法人
あつたかほーむ愛あい

住所/日向市大字財光寺2939-8
TEL/0982-66-0501 FAX/0982-66-0502
事業内容/介護・児童福祉

広報誌にチラシを同封しませんか？

宮崎同友会会員限定で広報誌にチラシを同封することができます。チラシは、お送りしたい月の前月末までに事務局にお送りください。自社での取り組み、やっていることを他の仲間にも知ってもらいましょう。チラシの封入は1部10円です。会員460名に封入する場合は、460名×10円で4,600円になります。

ご自身の所在支部のみ、特定の支部だけに封入することも可能です。同封をお考えの方は一度事務局までご連絡ください。

赤ちゃん誕生!!
おめでとうございます



株式会社
日向屋
専務取締役
請閑 仁さん（県北支部）

鍼灸治療院YELL
院長
請閑 ひかりさん（きりしま支部）

第1子
(長女)
ひなちゃん
が誕生しました。

ミツワ産業(株)

専務取締役 本 啓太さん (44歳)

「窓や建材のことなら全てお任せ下さい。当社は創業してもうすぐ50周年を迎える伝統と信頼のある卸売店です。多くの地域の方々や工務店様に支えられ、これまで営業してきました。今後も皆様のお役に立つよう精進致します。



都城市南横市町8347-1
TEL / 0986-25-0046
事業内容 / 住宅設備機器卸売業

初めて来たのに 「ほつ…」とする場所でありたい



特定非営利活動法人 あつたかほーむ愛あい

代表 横山 美智子さん

〔県北支部〕

思つたり、うくんとなる報告もありますが人それぞれに考え方があり、違つて当たり前。ただ、グループ討論の発表時に「…でまとまりました」とか「…といふ結論になりました」と考へ方の終着点を作るのはどうかなど思います。いろいろな意見があります。それを交流できるのが同友会の良さだと思います」と語る横山さん。

例会に参加した翌日は、必ず朝のミーティングで報告会の内容を話されるそうです。二人の娘さんが同友会の仲間と仲良くなつて学んでほしいと思つてゐるそうです。

法人には委員会活動があり活発になされています、特に3年前に立ち上げた生産性プロジェクトチームでは、「私たちは何のためにこのプロジェクトを立ち上げたのか、誰のために始めたのか」と議論になり、「美智子さんがいなくなつた時に通常の業務ができるか」など議論になりました。

なさっています、特に3年前に立ち上げた生産性プロジェクトチームでは、「私たちは何のためにこのプロジェクトを立ち上げたのか、誰のために始めたのか」と議論になりました。

横山さんは何かある毎に職員さんの伸び伸びと働ける職場であつて現在73名の職員数、少し多いくらいだと余裕のあるといろいろな仕掛けができるという。外部からの見学者も多く、4月からは地域包括支援センターも始動するそうで楽しみです。

見学をした
看多機OTOの
施設内は介護
ロボットをはじ
め、たくさんの
介護機器を利用
した支援がされていてびっくり。ちょ
うど車いすのまま入れるお風呂で入浴
を見学しました。

「ここではなく自宅で話しましょ
う」と横山さん。最初に開所した「あつ
たかほーむ愛あい」の横がご自宅で
見学しました。

(有)三船産業

専務取締役 三船 新平さん (28歳)

宮崎市内に拠点を置き、宮崎市からの委託業務や企業様から排出される廃棄物の収集運搬、さらには処理を行っています。



宮崎市高岡町上倉永1106-42
TEL / 0985-82-5353 FAX / 0985-82-3732
事業内容 / 廃棄物収集、運搬及び処理等

(有)一政設備

代表取締役 一政 貴博さん (34歳)

管工事業全般をはじめ、水廻り工事やリフォーム、リユース商品販売などを行っています。地域の人と共に成長していく会社です。



宮崎市大字赤江530-4
TEL / 0985-53-4884 FAX / 0985-53-4895
事業内容 / 衛生・空調設備、水廻りリフォーム、機器設備

訪問記 ほうもんき Vol. 68

横山さんは、日向市財光寺で小規模多機能居型居宅介護あつたかほーむ愛あいとムソーヤの2ヶ所、看護小規模多機能型居宅介護（以下、「看多機」）音OTO、有料老人ホームマイハートKOKO、凜、ジャックとまめの木の3ヶ所、訪問看護ステーションを1ヶ所、企業主導型保育事業はらべこあおむし保育園の8ヶ所の事業所を運営しています。

開設して17年。赤ちゃんから100歳越えの高齢者の方々の支援をしています。

殆どの事業所が補助金に頼らない独自運営に誇りをもっています。

取材当日は看多機OTOで待ち合わせ。横山さんが玄関で迎えてくれました。スタッフさんの笑顔あふれる挨拶が気持ちいい。ちょうどはらべこあおむし保育園の園児たちとOTOの高齢者の方々が誕生日会をやつていました。「見ていかれますか」の言葉に誘われて「それではちょっとだけ見学を」。園児が見ているスタッフも笑顔で、アットホームでいいなあと感じました。はらべこあおむし保育園は高齢者施設と併設されていることで、いつもおじいちゃん、おばあちゃんの優しい視線を受けながら皆で一緒にご飯を食べたり、おやつ作りをしたりと、園児も優しい子供たちに育つているようです。

施設と併設されていることで、いつもおじいちゃん、おばあちゃんの優しい視線を受けながら皆で一緒にご飯を食べたり、おやつ作りをしたりと、園児も優しい子供たちに育つているようです。

笑顔の素がたくさん

「歳ですか?」とか「身長は?」と質問。園児たちが大きな声で答えていました。それを見ているスタッフも笑顔で、アットホームでいいなあと感じました。園児たちが大きな声で答えていました。それを見ているスタッフも笑顔で、アットホームでいいなあと感じました。さんにはスタッフが一人ずつ「お年は何歳ですか?」とか「身長は?」と質問。園児たちが大きな声で答えていました。それを見ているスタッフも笑顔で、アットホームでいいなあと感じました。おじいちゃん、おばあちゃんの優しい視線を受けながら皆で一緒にご飯を食べたり、おやつ作りをしたりと、園児も優しい子供たちに育つているようです。

【見学】

DO YU 活動ズームアップ

宮崎北支部

望年会



12月10日、宮崎北支部望年会を開催。28名が参加し、桑山さん、橋口さんの司会で、お互いの今年1年を振り返る楽しい交流のひとときでした。最後は、第35回みやざき中小企業経営フォーラム実行委員長の立山氏による一本締めの音頭で閉会となりました。

宮崎南支部

同友会を知り合う会&望年会

12月4日に宮崎南支部「同友会を知る会&望年会」を開催。創立当初から関わられ、今期幹事として支えてくれているIDO・井戸事務所の井戸泰雄氏が「同友会の活動に学ぶ(感謝の気持ちをこめて)」というテーマで話され、熱い話に皆引き寄せられました。30年史を早く読みたくなつた方も多かつたのではないでしょうか。



12月理事会報告

日時:12月23日(火) 17:00~20:00 於:宮崎市民プラザ&Zoom
理事29名中23名出席(出席率79.3%) +事務局2名

01. 前回理事会(11月28日)以降の活動の経過報告を確認するとともに、12月22日までの3名の入会申し込みと1名の退会申出を承認しました。会員数は445名。

全体として退会率が上昇。なかでも宮崎北支部では退会者が期首会員数に対して20%をこえる見通しであることから、支部幹事会でその要因を分析して手立てを考慮すること、また組織強化推進協議会でも論議をしてほしいと、代表理事より要請がありました。

また、宮崎北支部からは功労会員の規定の見直しについて提案がありました。功労会員設置の経緯も踏まえながら、検討を重ねることとしました。

02. みやざき中小企業経営フォーラムについて

(1)第34回フォーラムの振り返りとして実行委員会での総括会議の内容の報告が小原実行委員長よりありました。提出内容が、振り返りの項目ごとの記載だったため、「成果と課題」に整理して次回理事会に再度提出することになりました。

(2)来年の第35回経営フォーラムの実行委員会の立ち上げにあたって、各支部から副実行委員長の推薦を行うことを前回理事会で確認していましたが、各支部まだ対応できておらず、早急に対応することを申し合わせました。1月21日(水)18時から同友会ネットワークセンターで、実行委員長と副実行委員長とでフォーラムの骨格(開催月、分科会数等)と組織体制案、第1回実行委員会の日程を検討し、1月理事会に提案することを確認しました。

03. 新春経営者交流会の準備について

100名以上での参加にむけて各支部の参加目標を出し合いました(下表参照)。キャンセル締め切りは1月14日。目標達成にむけてそれぞれ参加の呼びかけをしていくことを確認しました。

	県北	ひむか	宮崎北	宮崎南	きりしま	合計	青年部
目標数(ゲスト含む)	11	12	34	20	30	107	20

15グループを予定。グループ長は理事が担当し、当日14時30分よりグループ長会議を行うことを申し合わせました。

04. 新年度役員の選考について

(1)第1回理事及び会計監査(監事)選考委員会が12月10日に開催されたこと、選考委員長に、ひむか支部の田中陽一氏(株)ひよっこ堂 代表取締役)を選出し、選考規定にもとづいて、12月16日から12月26日の間で2026年度 理事及び会計監査(監事)並びに支部幹事、青年部会幹事の立候補・推薦の受付」を行っていること(12月16日にe.doyu掲示板で公告)が報告されました。

きりしま支部

12月例会&大望年会



12月22日、きりしま支部例会&大望年会を開催。110名が参加し、会場は熱気に包まれました。(有)ファミリーガスの森さんの報告は、同業の仲間と切磋琢磨しあう実践内容で圧巻でした。望年会では2025年に輝いたMVPを選び、(同)花菜の村山さんが受賞。そのプレゼンターはトナカイに運ばれてきたタナカクロース。(この全ては秘密)笑顔あふれる一夜となりました。

新着まだまだ、たくさん活動しています!
活動内容は
同友会Facebookでも配信中!!



中小企業振興基本条例制定への取り組み～三股町①～

中学生が「中小企業振興基本条例」を考えた!

三股町では、2025年1月「三股町中小企業振興基本条例(仮)」検討委員会を発足。宮崎同友会会員でもある廣瀬吉弘三股商工会会長((有)ひろせ本店社長)を委員長に、副委員長はきりしま支部代表幹事の原秀直氏((株)ハラケアシステム社長)、構成メンバーとして山元幸代氏((株)ARCUS社長)と樋口事務局次長も加わっています。今回は、中学生が条例づくりに関わった「ワークショップ」についてお伝えいたします。

給料がもらえる。給料がたくさんもらえる仕組みがある。

【自己成長・やりがい】
一自分の長所が伸ばせる。仕事にやりがいを感じられる。



第3回目(10月22日開催)は、いよいよ条例そのものに切り込んで「振興条例の添削」のグループディスカッション

顧問の原さんからは「中学生で条例づくりに関われるって全国でも聞いたことがないぐらいすごいことなんだよ。みんなすごいことに関わっているんだよ」と激励の言葉も。部員は1年生から3年生までいます。その一人一人が条例案を読み込んできたのワークショップです。「難しくてよくわからなかった」「意味を教えてもらひながら家族と読んだ」と、難しいと思いながらも、それぞれが工夫をしながら読んでいました。この条例にどのような言葉を加えたら、今まで考えてきた「幸せな働き方」「幸せな会社」につながり、「暮らし、働き続けたい町」になっていくかの視点で考えあい、次のような意見が出されました。



・ハラスメントに関することが入っていない。会社の責務として中小企業の努力および役割に加えた方がよい。

・前文に「町民が」とあるが、町外から通ってくる働く人や学生もいるのでその人たちとも幸せになることを入れたい。「町民問わず」とはどうか。

・第11条(町民の理解と協力)では、「町民ぐるみで」という言葉を入れたい。「自分たちで経済が循環するように協力する」を加えたい。

中学生がそれぞれの受けとめの中で、「町民がこの条例をもとに町内の経済をつくっていく主体者」という意識の芽生えを感じる3回のワークショップとなりました。検討委員会では、この意見をもとに3月議会提案へ向けて最終の詰めを行っていきます。